

# 新たな伝統 種まいた

## 東桜学館・小内主将

七回裏2死で9点差、追加点がなければコールド負けが決まる。東桜学館は選手全員がベンチから体を乗り出し、声をからした。小内翔主将(3年)も涙を流し、「つなげつなげ」と叫んだ。しかし、打球はふらふらと一塁手の頭上へ。アウト。東桜学館の初めての夏が終わった。

東桜学館は今春、楯岡から改組したばかりの新設校。この2カ月に急ピッチで新チームづくりを進めてきた。

最初に取り組んだのが移転先のグラウンド整備だった。2年ほど放置され、荒れ果てていた。選手自ら雑草を

抜き、小石を拾った。桜色の校名ロゴが入った新しいユニフォームも相談して決めた。

新チームの方針は、3年生4人で話し合い「全員野球」にした。小内主将は「突出した選手がいらないからこそ全員野球を大事にしたい。何十年先の東桜学館にも受け継がられれば」と話す。

この日は二回裏、後藤亮選手から後藤友亮選手、林勇汐朗選手の2年生3人の連打などで逆転した。「自分たちのつなげる姿勢、全員野球の姿勢が後輩たちにも受け継がれたのかな」

新たな伝統と夏の初勝利は後輩たちに託された。

(田中紳顕)

